

令和元年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 中之島小学校
校長氏名	馬場 秀典
作成日	令和 2年 2月28日

1 教育目標

教育目標:豊かな心と学ぶ意欲をもちたくましく生きる子どもの育成
めざす子ども像:「豊かな心情をもち、思いやりのある子供」「学ぶ意欲をもち、自らのめあて(課題)に向かって取り組める子供」「互いの良さに気づき個性を伸ばしていける子供」「心身共に健康な子供」

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力学習状況調査 ○県学習到達度調査 ○学校アンケート 勉強がわかる 85% (昨年85%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校アンケート 学校が楽しい 92% (昨年93%) 友達と仲良くしている 98% (昨年98%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力運動能力調査 ○学校アンケート 早寝早起き朝ご飯 84% (昨年84%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校アンケート 学校の様子をよく伝えている 86% (昨年83%) 学校と家庭の連携協力 75% (昨年69%)
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の確かな定着 ○授業力の向上 ○家庭学習の充実 ○読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育の充実 ○いじめの未然防止 ○仲間づくりの実施 ○道徳の授業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育科教育の充実 ○基本的生活習慣の確立 ○運動好きの子供の育成 ○体力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭・地域との連携充実 ○保幼小の接続 ○中学校区の学校間連携 ○地域の資源活用の推進
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・中之島タイムを充実させ基礎基本の定着に取り組んだ。 ・一人1研究授業を行い、授業の工夫改善に取り組んだ。 ・学びの丘のEサポートをうけ、国語科の授業研究を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業実践の充実を図った。 ・いじめアンケートを実施。早期発見に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中之島チャレンジを実施、体力の向上に取り組んだ。 ・学期に1回ドラドラ貯金を実施、生活習慣の改善に取り組んだ。 ・外遊びのできる環境の整備充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや中之島新聞を発行し、学校の状況を広く広報した。 ・地域の福寿会さんの協力を得て、昔遊びや豆まきを実施した。 ・幼稚園、保育所と交流を行った。
取組の成果と課題(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・県の学習到達度調査では5年生がすべての教科において、課題が見られた。 ・Eサポートを含む校内研修では、計画的に授業研究に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート、仲良く助け合う子の育成では昨年度を4ポイントうわまわった。 ・縦割り活動や保幼小交流では計画的に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力運動能力調査では、男子では6学年中4学年が、女子では6学年中5学年が全国平均を上回った。 ・外遊びする児童がおおくなった。一輪車に乗れる児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートで「家庭・学校の連携協力が図れている」では昨年度を6ポイント上回った。 ・学校開放月間にはたくさんの方が来校された。 ・ホームページの更新に課題
改善方法(A)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化 ・規則正しい生活習慣の確立 ・授業力の向上 ・基礎基本の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業の充実 ・すべての教育活動を通じた人権感覚の醸成 ・保幼小の交流の充実 ・縦割り活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業の充実 ・中之島チャレンジの充実 ・児童の遊び場の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新 ・地域人材のさらなる活用 ・地域へ学校の情報を発信する。ツールの工夫

3 その他の課題

○大きい学校ではないが、様々な課題を抱えている児童がたくさんいる。それぞれの子供に寄り添って対応するには人材が不足している。地域の人材や学生ボランティアなどの活用も考えていかなければならない。
○できる子、できない子の二極化が見られる。学習に遅れのある子供にどう対応するかが大きな課題である。
○朝の読書タイムは落ち着いて読んでいるが、図書室の貸し出しは一人当たり平均17冊と少ない。特に高学年での貸し出しが少ない。